“ちいさな企業” 成長本部（東京都大田区）
議事概要

中小企業庁

1. 概要

日時：2月27日（水）18：30～20：30

場所：東京都大田区（株）フルハートジャパン食堂）

参加者：安倍内閣総理大臣、茂木経済産業大臣、平経済産業大臣政務官、
中小企業庁 鈴木長官、関東経済産業局 宮川局長、松原大田区長、
中小企業・小規模事業者12社、支援機関3機関

2. 出席者からの主なご意見

- (1) 冒頭、鈴木長官から補正予算を中心とした施策について説明し、出席者からおおむね評価をいただいた。
- (2) さらなる要検討事項については、出席者から以下のような発言があった。
- 女性起業家にとって、専門家のアドバイスも重要であるが、身近の先輩経営者のアドバイスが役に立つ。
 - いかに会社を大きくするかではなく、大きくしなくても良いのでいかに会社を存続させていくかということを考えている企業もある。
 - 高度成長期に創業した経営者の引退の際の事業継承がネック。2～3代目の経営者は先代からの足かせにより守りの経営となっている部分がある。こうした足かせを軽減させる仕組みを作りたい。
 - 助成金の応募の際、会社が小さいと書類作成のコストが高い。応募書類をもう少し分かりやすくしてほしい。仕様書を読んでも自分の理解が追いつかず、自分の企業は排除されている印象を受けてしまう。
 - 専門家以外の人件費については助成対象として認められづらく、もう少し柔軟な運用をお願いしたい。
 - 中小企業の人材確保について、現場レベルでミスマッチが起こっている。求職者側の支援だけではなく、どうやったら人を集められるか中小企業もノウハウが必要で、セミナーのような支援が必要。
 - 労働基準法の規制が中小企業・小規模事業者の実態に合っていない。また、事実上一度正規雇用すると長年にわたって従業員として雇用するにもかかわらず、後にミスマッチが判明した際の対応が困難。
- (3) なお、事業者自身の取組については、以下のような発言があった。
- 商店街はコミュニティとにぎわいが重要。世代交代がうまくいき、地域

密着で、それぞれ地域資源をみつけて様々な取組を行っている。

- 中小企業・小規模事業者に経営資源が来ない一因として、事業者側の開示努力不足がある。ITを企業情報の開示を進められる。
- 地元企業が連携してボブスレーのプロジェクトを始めて、昨年12月全日本大会で優勝した。3月に国産初で輸出を行い、大田区のものづくり力をアピールしていきたい。

3. 茂木大臣からの主なコメント

- 消費者はニーズをもっているが、ないものは欲しがれない。具体的な商品にできるのがビジネスだ。女性の感性や若者の感性でしか思いつかないもの（例：女優ミラー）がある。
- 財務力や会計、システムの設計など大企業と同じように行うのは中小企業ではなかなか難しい。金融機関の役割も大きいと思っているが、政府としてどのような支援ができるか検討していきたい。

以上